

しゅわきょうげん 手話狂言ワークショップ



手話狂言「附子」

楽しく手話を学ぼう

日本ろう者劇団

聞こえる人も
聞こえない人も

このあたりのものでござる



しゅわきょうげん 手話狂言はどうやって演じるの？

『附子』に見られた「名乗り」や「呼び出し」
あるいは「動物の鳴き声」といった狂言のセリフが
手話狂言になるとどのように表現されるのか
違いを見比べてみましょう



しゅわきょうげん 手話狂言を演じてみよう！

狂言のセリフを手話で演じてもらいます
二つのグループに分かれて
狂言のセリフの掛け合いを
手話で演じてみましょう

イラスト：砂田アトム



社会福祉法人 トット基金
理事長 黒柳 徹子

日本ろう者劇団のレパトリーの中で、最も力を入れているのが手話狂言です。なにもかも手探りの「世界ろう者演劇祭典」（1983年）に参加したイタリアのパレルモが、はるか昔のこのように思えます。
あれから、演目も少しづつ増え、日本各地、世界各国のお客様に喜んでいただいています。「狂言って、こんなに面白いって知らなかった！」見終わった後、こうおっしゃるお客様がたくさんいらっしゃるのも嬉しいことです。とにかく楽しんでいただけることは絶対です。ぜひ、ご覧いただきたいと思います。そして、よろしくお願ひします。

がっこうじゅんかいこうえん 学校巡回公演

全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行うことを通じて、将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的としています。
ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。

プログラム

【第一部】

ごあいさつ

あらすじの紹介

手話狂言「附子」

～休憩 10分～

【第二部】

手話狂言ワークショップ

手話狂言「附子」のあらすじ

お屋敷のご主人さまが、家来の太郎冠者と次郎冠者を呼び出して、手桶を持ち出すと、「あの方から吹く風に当たっても滅却してしまう

『附子』という毒が入っているから、気をつけて番をするように」

と言いつけて、出かけていきました。

好奇心旺盛な二人は、なんとかして毒気に当たらないように、

手桶の中の『附子』を見ようとするのですが、

そこには思いもよらぬものが入っていたのです。



狂言について

私たちの国の代表的な伝統芸能に
今から700年近く昔の

室町時代に成立した「能」と「狂言」があります

この二つを合わせて「能楽」と呼ばれています

世界中から高い評価を得ている「能楽」は
世界全体で未来に向けて守り伝えていくものとして

2001年にユネスコの制定する
世界無形文化遺産に選ばれています

手話狂言について

狂言は「笑い」の劇 喜劇です

太郎冠者や主人・大名・山伏など

さまざまな登場人物たちが笑いの世界を繰り広げます

狂言のセリフは室町時代から江戸時代までの
古いことばです

手話狂言では 日本ろう者劇団員の手話と

狂言師の声の両方で 狂言のセリフを演じる

聞こえる人も聞こえない人も

共に楽しめる舞台芸能です



～ 日本ろう者劇団の紹介 ～

1980年に結成された、ろう者による劇団です。

手話狂言は、劇団設立者の黒柳徹子が発案し、狂言師の三宅右近の指導を受け、1983年にイタリアで開催された「世界ろう者会議・演劇祭典」で初演されました。以降、劇団の重要なレパートリーとなり、これまでに和泉流 狂言のうち70演目余りを上演しました。私たちは手話狂言を中心に、結成から40年以上にわたって、広く国内外で公演活動を続けています。